JAPAN HONG KONG

飛 FLYING DRAGON 龍

日本香港協会ニュース No.82

新しい観光電車が登場

日本香港協会広報委員会副委員長　小柳　淳

1人から乗れるオープントップトラム（写真：Hong Kong Tramways）

香港島の北岸を東西に走る二階建て路面電車に、赤と白に塗装された1920年代風デザインの観光電車が今年1月に登場しました。この電車は2階の半分ほどが屋根無しのオープントップトラムです。従来からあった28号車と128号車の2両は貸切専用車であったのに対し、この68号車は1人からでも乗れる観光ツアー電車です。1920年代風とは、当初1階だけだった香港路面電車が徐々に2階席を設けてきて、初めて2階も完全に屋根と壁に囲われた車体になった第四世代車と呼ばれるモデルです。

運転区間は上環～銅鑼湾間で、毎日3往復しています。香港島北岸の最も賑やかな市街地の区間です。なお、乗降場所は両端の上環と銅鑼湾だけです。この電車は一般の電車とは区別され、「電車全景遊／*TramOramic Tour*」と名付けられたツアー形式となっています。インターネットから予約ができますが、余席があれば上環か銅鑼湾の始発駅で当日乗車もできます。ツアー料金は1人HK$95、日本円で約1,500円ですが、一般電車の1回乗車運賃のHK$2.3と比べると相当高い設定です。そのためか、乗っている人は一見して観光客と分かる外国人ばかりで、地元の人向けではなさそうです。なお、この料金で観光電車に片道1回乗れるほか、一般電車が2日間乗り放題になります。高いか安いかどう感じるかは人それぞれですが、従来からのオープントップトラムの貸切料金は最低でHK$3,100（2時間、最大30人まで）ですから、少人数の個人旅行者にとっては、気軽にオープントップトラムに乗れる機会が初めてできたと言えそうです。

乗客は8か国語のレシーバーで風景説明を聞くことができます。その8語は英語、広東語、中国語普通話、日本語、韓国語、スペイン語、フランス語、ロシア語です。電車車内には開業以来112年の間に走った電車の側面図が刻まれた金属プレートが飾られてもいます。運転手の制服も一般車と違い、水色のシャツに白の制帽と結構凝っています。

最後の一往復は、上環発が18:30、銅鑼湾発が19:55ですので、ネオンサイン輝く香港市街の夜景ツアーも楽しめます。

2016年4月 発行（禁無断転載）

目　次

新しい観光電車が登場……1
香港の思い出……2
香港インターンシップ……3
アジアNo.1資産運用センター（Wealth Management Centre）都市、「香港」の魅力……4
香港貿易発展局新日本首席代表・林蘇珊（スーザン・ラム）氏に聞く……5
「香港貿易発展局　香港春節ビジネスセミナー＆レセプション2016」……6
連合会・各協会便り
東　京：第15回NPO法人日本香港協会年次総会開催／プレミアムプーアール茶基礎講座／フェイスブックのお知らせ……7
関　西：2016年度春節イベント／文化部セミナー開催……8
中　京：総会・春節パーティ報告及び香港・マカオの歴史探究(1)……9
九　州：「2016年春節セミナー＆パーティー」……10
北海道：「香港ビジネスセミナー＆相談会inとかち」を開催……11
宮　城：2016春節セミナー＆パーティーを開催／女性部会が香港文化教室を開催……12
沖　縄：沖縄日本香港協会 役員昼食会 開催／春節 香港経済セミナー2016 開催……13
広　島：「第16回香港フォーラム」「全国協会交流会」へ参加／「春節・意見交換会」の開催……14
新　潟：香港ビジネスセミナーを開催／2016春節セミナー＆パーティーを開催……15
キャセイパシフィック航空からのご案内……16

香港の思い出

元日産自動車バンコック事務所長　酒井　弘之

社会人人生41年をアジアの商売―輸出、現地販売促進、現地生産―で過ごしてきた。走り回った範囲は東南アジアを中心に西はパキスタン、南はオーストラリア、北は韓国である。香港もその目的地の一つであったが、各地への往復の中継地としても頻繁に訪れたものだった。

1961年（入社後3年）初めて乗った飛行機コンベア880で降り立ったのが香港、東京みたいな大都市が厳然と存在しているのにまず驚いた。仕事はまず欧米各自動車販売店のショールーム巡りから始め、街を歩き回った。

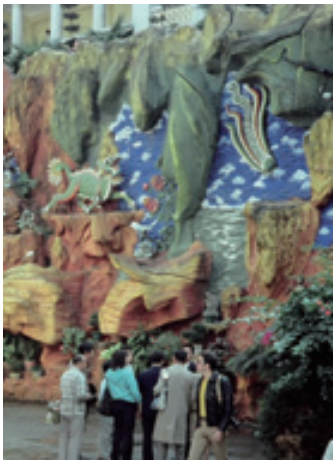
仕事の他に目についたのが映画館、香港映画というものが珍しくて飛び込んだ。題名は「不了情（Love without end）」。中身は別にして会話の中国語の流麗、主題曲の艶麗にすっかり惚れ込んでしまった。“忘不了～”の歌詞は54年経った今でも“忘れない”でいる。後に台湾に駐在した時中国語を学んだが、淵源はここにある。この歌と、同時に香港で流行っていた「情人的眼涙（Lover's tear）」はバンコック、クアラルンプール、シンガポールなど東南アジア主要都市でも流行していて、ことにナイトクラブの香港ガールの必須の名曲になっていた。

ここで私は、香港が東南アジアの人々、特にその経済を握る華僑たちに愛され、大衆文化のリーダーであることを知ったのである。

その後商用、飛行機の中継で数多く香港を訪れた。なにしろ香港は日本・アメリカと東南アジア・西アジアさらには南欧州を結ぶ要路にあり、また往時の花形機ボーイング707、ダグラスDC8ですら給油のため香港に着陸する必要があったのだ（今ではボーイング747、所謂ジャンボ以降東京―バンコックを無給油で飛べる）。だからJALなど多くのエアラインは香港経由だった。

その飛行機が当時使ったのが湾岸海面に突き出たランウエイを持つ啓徳（カイタック）空港で、山側から高層ビルすれすれに降りていくので揺れる主翼が当たらないか冷や冷やしたものだ。

香港の素晴らしさは何といっても景観・ご馳走であろう。景観、中でも山頂（ヴィクトリア・ピーク）からの夜景、浅水湾（レパルスベイ）の海辺（米映画「慕情」のシーンはその主題歌と共に世界中に有名となった）の素晴らしさは忘れられない。また、香港島と九龍を結ぶフェリーから見る両岸の風景は見事だし、船の前後が同形で船首の向きを変えることなく両岸に接岸できるのが面白い。今や海峡を地下鉄で一気に通り過ぎることもできるが観光には勿体ないことだ。全体に近年（最後の訪問は2010年）の印象はあまりにも賑やか、便利、俗っぽくなって、昔得た感動とは異なったが。


かつてのタイガーバームガーデン

印象に残る飲食では書き出せばきりが無いが、香港仔（アバディーン）のフローティングレストラン船上の海鮮料理、九龍（カオルーン）のペニンシュラホテルのアフタヌーンティが双璧ではなかろうか。前者は代理店主夫妻が連れて行ってくれ最大奮発して頂いたのだから当然だろう。また後者は退職後広州駐在中の息子たち一家を伴って行ったが、孫娘たちが驚嘆しすっかり病みつきとなったようだ。東京で探し回るがどうも味・量の点で及ばず、このためにも香港へ行きたくなる。

街歩きで最も楽しいのが中環（セントラル）、湾仔（ワンチャイ）など中心地の商店街や北角（ノースポイント）などを繋ぐ二階建てトラムだ。東京などはさっさと廃止した市街電車だが、香港のそれは交通手段のみならず観光資源に十分なっている。地下鉄も出来たがやはり味気ない。

両繁華街の中間ワンチャイは、昔は米映画「スージーウォンの世界」の舞台で、未開発だったと記憶するが、今では高層ビルの立ち並ぶ近代的なエリアになっていて驚いた。昔は「タイガーバームガーデン」も珍しく面白かったが、今はどうなっただろうか。虎標軟膏「タイガーバーム」は傷によく効くので日本への土産に買って帰ったものだった。ただ沢山持って帰ると通関がやかましいというので、いつも10個までにしていたが。

香港は英国車を始め世界の名車が氾濫していて、井の中の蛙だった私の目を開かせた。日本車輸出開始の当初、ニューカマーの日本車は自家用車としては苦戦し、タクシーを狙った。当時、赤と緑に塗られた“的士”タクシーはM.ベンツのディーゼル車ばかりでガソリン車では売れず、いろいろ工夫したが結局ディーゼルエンジンを搭載したモデルで先輩を駆逐した。現在ではタクシー、自家用共に日本車が大手を振っている。

お隣の広東で「広州交易会」というのが毎年催され、自由貿易の許されない時代の輸出窓口であった。何度か深圳河の橋を徒歩で渡り後は汽車で広州へ行った覚えがある。深圳まで新界（ニューテリトリー）の風物は香港島・九龍半島部とは全く違ったもので、従来描いていたChinaの田舎がそこにあったという印象が残っている、今は開拓開発されて住宅地工場街が拡がっていようが。

香港はかつて日本人にとって世界の名品の溢れた垂涎の商業地であって、名流婦人たちが争って香港詣でをしていた。今や現代の若者にとって香港はご馳走と景勝に満ちた身近な外国であり、気軽に飛んで行く。

香港を中華文化の窓口として大事にしたい。“東洋の真珠”は色褪せない。

香港インターンシップ

亜細亜大学　新井敬夫・三橋秀彦

◆はじめに

2015年8月31日からの2週間、本学亜細亜大学国際関係学部の男子学生2名が、香港企業である王氏港建国際集団（以下WKK社）でインターンシップをさせて頂きました。これはNPO法人日本香港協会（東京）理事長原田光夫氏の全面的支援によって実現されたものです。2名の学生の2週間のインターンシップといったささやかな取り組みですが、この数年海外でのインターンシップに熱心に取り組んできた本学にとっては、大きな一歩でした。企業人を中心とした読者の皆さまに、日本の大学におけるグローバル人材教育の現状の一端を知って頂く機会となればと思い、今回貴重な機会を提供してくださった原田氏への謝意を込め、寄稿いたします。

◆亜細亜大学における香港の意味

本学の香港との交流は、香港からの留学生受入れのため中国留学生部が開設された1954年に遡ります。その後香港中文大学新亜書院との間で学生交換協定が締結され、今日までに104名の日本人学生が香港に留学し、ほぼ同数の香港人学生を受け入れて来ました。建学の理念を謳う学則の第1条に「アジア融合のための人材の育成」を掲げる本学の国際交流は、文字通り香港からスタートしたと言えます。1989年には、当時の日米摩擦を受け、両国の若者の草の根交流の重要性に鑑み、留学中にアメリカ人大学生との共同生活が経験できるアメリカプログラムをスタートさせました。今日までの26年間、毎年4学部全体で一学年の4分の1に相当する400名の学生が5か月間アメリカに留学し、四半世紀を経た現在、その経験者は約1万2,000名に上ります。2004年からは日米の交流を日中に拡大し「アジア夢カレッジ―中国キャリア開発プログラム―」を立ち上げました。同プログラムでは5か月間の留学期間中、学生たちは中国人学生と共に暮らし、そのうちの1カ月間、留学先の大連でインターンシップを経験することになっています。

こうした取り組みが評価され、2013年にスタートした文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択事業では、優れた国際教育を行っている重点校42大学の一つに本学は採択されました。全国700近くある大学のうちの42校に選ばれたことは大変な栄誉であると同時に、建学の理念でありかつ同採択事業で掲げたアジアで活躍できる人材（「行動力あるアジアグローバル人材」）の育成をする上で、シンガポールと並ぶアジアビジネスのハブであり、かつ本学の国際交流の原点である香港でインターンシップ拠点を整備することは急務でもありました。

インターンシップ初日の緊張

◆香港におけるインターンシップ

今回学生たちがお世話になったのは広東省東莞市にあるWKK社の事業所です。学生たちは8月31日からの2週間、人事部を拠点に中国の製造現場の現状を体験させて頂きました。日系メーカーでのインターンシップは、すでに紹介した「アジア夢カレッジ」にも組み込まれ、すでに大連で150名ほどの学生が経験しています。一方、香港企業での100%中国語と英語を使用したインターンシップは、学生だけでなく本学にとっても貴重な経験となりました。学生たちがインターンシップ後にまとめた報告書には、2つの強烈な印象が刻まれています。⑴マインドセットの重要性（「皆さん時間の利用方法がうまく、仕事を楽しむことと熱意とが両立し、相乗効果を生んでいました」）、⑵制度設計の重要性（「現場での様々な問題に接し、部下の仕事ぶりに対する管理者個人としての励ましだけでなく、いかに賞罰が明記された労務管理規定が必要かを実感しました」）。この2つは日本企業にとっても欠かせません。ただその後の国内インターンシップを経て、日本企業との比較の中から、学生たちの心の中に香港企業のマネジメントの特徴が刻まれていったはずです。

◆終わりに

今回紹介させて頂いたWKK社の他に、本学では2014年からの2年間で、ソウル・上海・香港・深圳・シンガポール・ペナン・ロサンゼルスで、約50名の学生が3年の夏休みに海外インターンシップを経験しました。日本の大学生にとり、学生のうちに世界における様々な働き方を知り自らのキャリアをスタートさせることは、グローバル化が進む今日、どれほど得難い経験であるかは言うまでもありません。香港でこのような機会を持てたのもひとえに原田理事長をはじめとするNPO法人日本香港協会（東京）の御支援の賜物です。この場を借りて御礼を申し上げます。同時に、少しでも多くの学生にこうした機会の提供を、と願う我々としては、本誌の読者の皆様の中で、同様の機会を提供していただける方がいらっしゃれば、御一報頂けると大変幸甚に存じます。

インターンシップ終了　WKK社の皆さんと

新井敬夫／亜細亜大学国際関係学部教授（国際関係学科）、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」チーフディレクター
三橋秀彦／亜細亜大学国際関係学部准教授（多文化コミュニケーション学科）、元駐香港日本国総領事館専門調査員（1994－97年）

アジアNo.1資産運用センター（Wealth Management Centre）都市、「香港」の魅力

Nippon Wealth Limited,Restricted Licence Bank　Executive Director and CEO　中島　努

◆アジアナンバーワンの資産運用センター「香港」の資産運用市場としての魅力

2015年 Deloitte Switzerlandの発表したThe Deloitte Wealth Management Centre 2015によると市場別預り資産規模では、スイスのナンバーワンの地位は変わらず、アジアでは、香港が第5位に入っており、シンガポールが第6位である。香港は2012年にシンガポールを抜き去り、アジアNo.1の地位をそれ以来維持している。一方、世界第2位の個人金融資産を誇る日本は残念ながらベスト8にも入らず、その他市場に分類されている。成長市場と言う意味では、香港は2008年以来146％の伸びを示しており、名実共に世界ナンバーワン成長市場であり、世界の資産運用ビジネスの牽引車的役割を担っている。

これらの事を裏付けるように、香港には世界中の主要な金融機関が進出しており、様々な形で個人に対してもサービスを提供している。近時、米系大手金融機関であるシティバンクがHSBCに引き続き日本において個人業務から撤退してしまったのとは対照的である。また、提供されている商品に関して、投資信託の投資セクターカバー率の広さ、債券取引では無格付債券から最高格付け債券までその種類・発行体の多様さ、世界一のIPO市場と通じた成長株への投資機会、金等貴金属投資商品等いずれをとってもその規模・国際性では、アジアでは群を抜いており、「香港」はアジアを代表する資産運用センターとして大きな「輝き」を発揮している。

◆欧米のプライベートバンク（以下PBと略す）のサービス事情について

欧米の金融機関PBサービスは、一人一人の資産規模に応じて国際分散投資を基本にテーラーメード型の資産運用サービス提供し、時には資産運用のみならず企業オーナーの事業承継等多岐に亘るサービスを提供し、顧客ベースを維持している。 一方、2008年のリーマンショック以降は、欧米金融機関PBも効率経営重視の姿勢はより鮮明となり、最低預り金額の大幅な引き上げで（500万米ドル以上が一般的に）、サービスを受けられる顧客は一般富裕層ではなく、資産1,000万米ドル以上の超富裕層に限られ、一般富裕投資家にとり欧米PBでの口座開設は更に高いハードルになっているのが現状である。

◆日本の個人金融資産分布

一方、日本では、野村総合研究所が発表しているデータから数値を抽出すると、アベノミクスの前後（2011年と2013年）の個人金融資産クラス別変化に関して、2011年から2013年にかけて日本の個人金融資産は、148兆円増加している事がわかる。特に3,000万円以上金融資産保有層（マスアフルエント層以上、1,100万世帯）の資産増額が148兆円のうち110兆円を占め、全体の75％を占めている。一方世帯数でみれば、金融資産5億円以上の超富裕層世帯数は僅か54,000世帯と全体世帯数の0.1％にしか過ぎず、金融資産3,000万円（マスアフルエント層）から5億円（富裕層）クラスが105万世帯あり当該層の資産運用ニーズがマスにおいて最も高いと考えられる。しかし、前述のように当該層は、欧米金融機関PBの最低預り金のハードルが高い故に、本格的な国際資産運用サービスを受けられないでいる。

◆香港における「個人の為の資産運用サービス専用金融機関」＝「NWB」の誕生

このような状況の中、日本・香港を代表する株主企業10社からなるシンジケートメンバーで構成される「個人の為の資産運用サービス専用金融機関」、即ち銀行・証券・保険のワンストップサービスを提供する金融機関として、Nippon Wealth Limited, Restricted Licence Bank（NWB）が、2015年10月に香港当局より限定銀行免許・証券免許の両方を受領し全面開業した。

その最大の役割は、アジアナンバーワン資産運用市場としての「香港」に於いて、日本語で、しかも、欧米金融機関PBの50分の1程度の最低預り金10万米ドルに設定し、マスアフルエントから富裕層まで幅広い層に対して欧米金融機関並みの「本格的な国際分散投資サービス」を提供することにある。

既に多くのお客様の利用が始まっており、現在は、定期預金、投資信託、債券、そして貯蓄型の保険（保険は主として香港居住者対象）を中心に展開している。香港ならではの国際分散投資の醍醐味を一人でも多くの皆様に楽しんで頂ければと考えている。

一方、相対的な日本資産割安感のある中で、アジアの個人投資家の日本投資熱は大いに高まっている。即ち「投資」のインバウンド需要である。特に日本不動産投資熱は、今後も継続的に続くものと思料され、筆頭株主の新生銀行から香港人向け円ローン提供、主要株主の東急不動産グループから不動産案件紹介、更には物件管理と唯一ワンストップで紹介可能な体制を整えている。近い将来は、日本のベンチャーキャピタルファンド等金融商品の紹介を視野に入れ、日本投資の水先案内人としての役割を担っていければと思う。

NWB社のロビー

香港貿易発展局新日本首席代表・林蘇珊（スーザン・ラム）氏に聞く

4月1日付けで香港貿易発展局の新しい日本首席代表に林蘇珊（スーザン・ラム）氏が就任した。新代表に日本の印象や仕事への意気込みを聞いた。（聞き手＝平野純一・日本香港協会〔東京〕広報委員）

―― 日本代表になると聞いた時の感想と日本の印象は？

ラム　次の勤務地は日本と聞いた時は、非常にうれしく思いました。これまでも日本は何度も訪れていますが、私は日本という国が大好きです。

2月中旬に着任して以来、北から挙げると、北海道、仙台、新潟、東京、名古屋、大阪、福岡、沖縄などの都市を訪れました。日本語が話せないということを少し心配していますが、どの都市のビジネス・コミュニティーのみなさまも、とても温かく私を迎え入れてくれました。ですから、こうしたみなさまと協力して仕事を進めてゆけることをとても楽しみにしています。

―― 日本の産業で輸出競争力を持つと考えているのはどの分野でしょうか。

ラム　3つの分野が競争力があると考えています。1つ目はもちろん食品です。2つ目は宝飾品。3つ目はクリエイティブ産業です。これは私たちが開催しているブックフェアに参加してもらえるとよく分かります。会期中に延べ100万人の来場者を動員する同フェアでは、単に本を展示したり紹介するということだけでなく、日本の文化やツーリズムについて海外に向けて情報発信することも含めて、大きな役割を果たしています。

加えて、日本のテクノロジー分野に可能性を感じています。中でも日本の環境技術は非常に高度です。中国では大気汚染がありますし、ゴミ処理などの問題もあります。香港は面積で見れば沖縄本島と同規模ですが、市場としては中国本土やアジア全体を視野に入れています。ですから、私たちは香港と日本のあらゆる産業セクターにおいて、相互のビジネス・パートナーシップを育みたいと考えています。

この点で、中国政府の「一帯一路」政策には、巨大なビジネスチャンスが潜んでいます。この政策はアジアから欧州まで65カ国をカバーし、これらの国々の20年、30年先の成長まで見すえています。一帯一路の国々の多くはまだ発展途上なので、多くのインフラを必要としています。非常に巨大なマーケットが存在していると言っていいでしょう。

日本や香港はこの一帯一路の地図の中に含まれていませんが、私たちは金融やインフラ投資に関連したサービスを提供することができます。私たちは常にパートナーを求めています。日本は私たちのもっとも近しいパートナーの一つです。

今後もできるだけ多くの日本企業にトレードフェアに参加してもらい、製品を輸出する際に香港を「プラットホーム」として利用してもらいたいと考えています。

―― 最近香港では、特に若者が香港政府にも中国政府にも、もっと民主化せよと言っています。これはビジネスに影響しますか。

ラム　香港でいま起きていることはもちろんポジティブなサインではありません。しかし香港は特別な場所です。これまでもこの種のトラブルは少なからず起きてきましたが、ビジネスに影響したことはありませんでした。「政治は政治、経済は経済」です。私たちはビジネスに注力していきます。

―― 日本企業に対してアドバイスすることは何でしょうか。

ラム　日本企業は海外に出ていくことに臆病であるように見えます。大きな理由の一つは言葉の壁なのかもしれません。しかし、もしも自らのビジネスを海外市場に拡大したいと強く望むならば、私たちはそうした日本企業が海外へと踏み出すことを支援します。

世界経済はいま必ずしも好調ではありません。しかし一歩前に踏み出さなければ、後塵を拝してしまいます。ご承知の通り、いま日本経済も苦しい時期にありますが、だからこそ外に出ていくべきです。最初に出ていく人が勝者になり、「先行利益」をつかんで欲しいと思います。出て行かなければ、チャンスを失ってしまいます。

―― お休みの日は何をしていますか。趣味は何でしょうか。

ラム　私は外に出かけるのが好きな人間です。スポーツも大好きで、香港ではバドミントンをやっていました。ドイツではよくハイキングに行きました。ドイツに赴任する前も美しい日本を訪れてハイキングを経験しています。日本は山、海ともにハイキングをするには絶好の場所がたくさんありますし、どこへ旅行するのも安全なので楽しみにしています。あと一番好きな日本食はやはりお寿司ですね。

林蘇珊（スーザン・ラム）／香港出身。カナダのサイモンフレーザー大学で文学士（B.A.）取得。1995年に香港貿易発展局入局後、深圳事務所、本局エキシビション事業部、本局サービス・プロモーション事業部などに勤務。2011年6月から独フランクフルト事務所に勤務し、'12年10月にドイツ・中欧代表に就任。ドイツ、チェコ、ハンガリー、ポーランドなどにおける香港貿易発展局の事業を統括。2016年4月より日本首席代表。

日本香港協会全国連合会

「香港貿易発展局　香港春節ビジネスセミナー＆レセプション2016」

香港貿易発展局（HKTDC）主催の香港春節ビジネスセミナー＆レセプション2016が2月17日（水）ホテルニューオータニにて開催されました。数々の不安定要素により世界経済の先行きに不透明感が増す中、益々存在感が高まっている中国が提唱する経済圏構想「一帯一路」が、どのような影響や機会を周辺諸国にもたらすかについて、専門家にマクロ的な見地から分析・考察していただきました。香港につながりのある各産業界の代表者の方々とのパネルディスカッション、ならびに交流会が盛り込まれ、会場には日本の政官財学、各種団体や報道機関などから約120名以上が集まる盛大なイベントとなりました。

最初に主催者を代表して、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏より開会の挨拶があり、続いて「香港最新経済動向―シルクロード経済圏に向けて」と題し、一帯一路シルクロード経済圏、とりわけ人民元経済圏としての特徴からビジネスチャンスに至るまで、この分野のスペシャリストであり、HSBC投信株式会社社長を長年務められた松田宇充氏による講演がありました。講演の後には2つのパネルディスカッションが行われ、第一部では、ファッション、デザイン、建築、ギフト、医療医薬品、物流、金融等を含む14の産業を代表する方々に登壇いただきました。第二部では、農林水産省、経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）、独立行政法人中小企業基盤整備機構（SMRJ）、新潟市等の機関・自治体の代表者をお招きし、活発な報告がなされました。

セミナー、パネルディカッションに引き続き開催されたレセプションでは、古田氏による主催者挨拶のあと、農林水産省食料産業局輸出促進課長の山田英也氏、内閣府知的財産戦略推進事務局政策参与兼日本貿易振興機構参与の浜野京氏による来賓挨拶がありました。その後、香港貿易発展局日本首席代表の古田氏が3月31日を以て退任し、これまで香港貿易発展局ドイツ・中欧代表を務めた林蘇珊（スーザン・ラム）氏が4月1日より日本首席代表に就任する旨の発表がされ、両氏による挨拶がありました。

香港貿易発展局現首席代表古田茂美氏（右）と後任のスーザン・ラム氏

挨拶に引き続き、一般社団法人日本ジュエリー協会会長の丸山朝氏が壇上に上がり乾杯の音頭をとると、場内は春節のにぎわいにふさわしい、満場の拍手に包まれました。

レセプションの最後には、1等：キャセイパシフィック航空ビジネスクラス香港往復航空券1名様、2等：キャセイパシフィック航空 エコノミークラス香港往復航空券1名様、3等：香港貿易発展局主催第1回「一帯一路サミット」*入場券（200米ドル相当）3名様等の豪華賞品が当たる恒例のラッキードローが行われ、今年も香港春節レセプションが盛大に幕を閉じました。

＊**一帯一路サミット**……中国の「一帯一路」構想は、アジアから東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジア、中東を経由してヨーロッパまで、東西のビジネス連携を拡大することによる、経済の秩序ある自由な流れと資源の効率的配分の向上を目的としています。「一帯」は「シルクロード経済ベルト」を、「一路」は「21世紀海上シルクロード」を指しています。この構想は、新市場に進出し、中国本土、ASEAN諸国など、一帯一路に沿った経済圏の巨大な可能性を探る、企業にとっての無比の機会です。香港特別行政区政府と香港貿易発展局では、本年5月18日に、香港コンベンション＆エキシビションセンターにて、「一帯一路サミット」を開催します。国際的なオピニオンリーダー、関連諸国の閣僚、世界的に高名なビジネスリーダー等20名以上が登壇し、国際機関の要人、企業幹部、事業主体者、国際投資家、専門的サービス提供者等1,000名以上が参加する国際会議となる見込みです。

香港貿易発展局主催香港ビジネスセミナー＆レセプション出席者の皆様

香港春節レセプション2016

日本香港協会広報委員会副委員長　本田　茂樹

第15回NPO法人日本香港協会年次総会開催

去る3月19日(土)東京虎ノ門、霞ヶ関ビル東海大学校友会館にて「第15回年次総会」、並びに「懇親会」が開催されました。進行係の菅沼副理事長により総会の開催が宣言され、原田理事長の議長の下、担当理事による平成27年度事業報告、同決算報告、並びに新年度（平成28年）の事業計画、同予算計画の説明が行われ、役員改選も含め全議案とも異議なく満場一致で承認されました。

新年度の事業計画の特徴は、SNSを利用した一層の情報公開、会員との情報交換の機会の深化、従前から行われている日本、香港両市民間の文化、経済にわたる相互理解の事業の推進、 さらにバウヒニア会を中心に女性会員の活動の更なる強化です。個別事業としては、例年人気の広東語教室の主催、香港ビジネス懇話会の充実、また、日港市民交流では、将来の布石として、一層の若年、 青年層支援を図っていきます。また、女子プロジェクト「バウヒニア会」においても女性を中心としたビジネス交流、旅行、食、料理と多岐にわたる交流を深め、協会の一層の活性化を推進します。

退任のご挨拶をされる
香港貿易発展局古田茂美日本首席代表

就任のご挨拶をされる香港貿易発展局林蘇珊（スーザン・ラム）次期日本首席代表

引き続き、6名の新理事、2名の新監事を交え、会場を移して懇親会が行われました。席上、長年香港貿易発展局にてご活躍された古田茂美日本首席代表より退任のご挨拶が、またドイツより新たに就任される林蘇珊（スーザン・ラム）次期日本首席代表よりご挨拶を戴きました。各テーブルでは、昨今の香港の話題を中心に盛り上がり、また新年度の事業活動に向けた様々な意見も聞かれ、会員、非会員相互の和やかな交流の場となりました。

NPO法人日本香港協会〔女子プロジェクト〕バウヒニア会

プレミアムプーアール茶基礎講座！

バウヒニア会は2月5、6日の二日間にわたり、ビンテージプーアール茶への入口をご案内する「プレミアムプーアール茶基礎講座」を開催いたしました。今回初めて香港の新星茶荘とタイアップした講座は、香港から新星茶荘の石津陽子さんをお招きし、プロのお茶屋さんから愛好家の方まで6名の方にご参加いただきました。

新星茶荘という雲南省からプーアール茶を仕入れ熟成、販売するお茶屋さんならではの品ぞろえ、また、製造年、等級などがきちんと記録・整理されている卸小売商ならではの特性から、製法別、年代、産地の特色を体験することができました。今回のお茶は日本ではほとんど扱っているお店がない貴重なお茶も多く、なんと1片何十万円もするお茶まで香港から持ってきていただくという豪華企画でした。

試飲した伝統製法による普洱生茶（青餅）6種類、文革以降製造されるようになった普洱熟茶6種類のお茶の特徴は、参加者の味の記憶となって今後のお茶の楽しみが倍加するものと思います。今後も香港の飲食文化をご紹介する催しを企画していきますので、ご期待ください。

当日の教室風景（中央は講師石津陽子さん）

NPO法人日本香港協会（東京）のフェイスブック（FB）のお知らせ

昨年暮れよりNPO法人日本香港協会(東京)は、新たにフェイスブック（FB）を運用開始致しました。フェイスブックを利用して、日港市民交流の様々な最新情報を適宜掲載しています。東京独自のイベントや、女性目線で企画されたイベント情報があります。皆様、是非「いいね！」をクリックしてご参加下さい。

The Japan Hong Kong Society（日本香港協会）：https://www.facebook.com/The-Japan-Hong-Kong-Society - 日本香港協会-230515747743/

NPO日本香港協会女子プロジェクト「バウヒニア会」Japan Hong Kong Society Tokyo, Women's Project Committee Bauhinia：https://www.facebook.com/bauhinia.tokyo/

関西日本香港協会　事務局

2016年度春節イベント

◆2016年年次総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー

2月22日にヒルトン大阪で2016年年次総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーを開催しました。26名が参加した総会では、2名の新任理事、平成27年度の決算報告書、平成28年度の事業計画と予算案が承認され、今年も充実した内容の事業を実施することにしました。

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーは110名が参加し、今年も盛会でした。パーティーは木全会長の挨拶で始まり、香港貿易発展局の日本首席代表古田茂美氏が歓迎の挨拶と3月末退任の報告をされ、後任のスーザン・ラム氏が新任の挨拶の中で日本と香港の友好的な関係のさらなる発展に向けた抱負を述べられました。続いて、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の次席代表アルビン・ツイ氏の来賓挨拶があり、中華人民共和国駐大阪総領事館の副総領事ソン・ツイ氏が春節祝賀の挨拶の後乾杯の音頭をされました。会食はヒルトン大阪の中華料理「王朝」の旧正月特別料理を楽しみ、大阪の官界、財界のVIP招待客や会員の皆さんが積極的な交流で親睦を深めました。

アトラクションは、当協会の会員で大人気のシャンソン歌手貴志まさみさんが国内外で活躍中のピアニスト、アルベルト田中氏の伴奏で6曲歌い会場の皆さんを魅了しました。協賛企業から提供されたラッキードローを楽しみ、田中義次副会長の挨拶で閉会しました。

◆香港春節セミナー2016 in 大阪

「一大消費市場：香港の魅力、香港からアジアへ」をテーマにした春節セミナーを香港貿易発展局と共同主催し、大阪商工会議所の共催と沢山の経済団体の後援をいただき、約150名が参加する有意義なセミナーを盛会裡に実施しました。

シャンソン歌手貴志まさみさん

乾杯の音頭は中国駐大阪副総領事ソン・ツイ氏

講演1：「一帯一路～シルクロード経済圏の全貌と香港の役割」香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏

講演に先立ち古田氏はビデオスクリーンで関西日本香港協会2015年度活動内容と香港経済のハイライトを紹介しました。講演テーマに関しては、中国の「一帯一路」構想が生まれた背景、シルクロード経済圏発進で国家を超えたネットワーク経済圏が将来構築される可能性、同構想から発生する巨額なインフラ投資の波及効果などに関し豊富な資料で詳しく解説されました。今香港で最も話題になっている、中国の「一帯一路」構想が関西のみなさんに大きな関心を呼ぶセミナーになったと思われます。

講演2：「日本のおむすび文化！香港へ、そして世界へ」百農社国際有限公司董事山田憲司氏

山田氏は早稲田大学大学院ファイナンス研究科、米国のUCLAロサンゼルス校数理物理学科を卒業されて、元ヤオハン香港勤務を経験され、香港貿易発展局主催のフードエキスポでおむすび完売したことを契機におむすび店の香港進出にチャレンジして大成功、2月末には17号店を開店、さらなる展開を目指しておられます。冷たいご飯を食べないのが普通の香港で、日本のおむすび文化を大胆にも開花された苦労話と成功の秘訣は、聴衆を大いに魅了するセミナーでした。

文化部セミナー開催

2015年11月27日に香港貿易発展局のセミナー室で、高野山真言宗総本山金剛峯寺宗務公室課長補佐清原幸仁氏を講師にお迎えし、「高野山開創1200年を迎えて、天空の聖地高野山と弘法大師」と題したセミナーを実施し、19名が参加しました。清原氏は弘法大師の生い立ち、高野山の歴史と開創1200年の記念事業、高野山を訪れる外国人の急増などについて興味深いお話をされました。

中京日本香港協会　事務局長　佐藤　亮一

総会・春節パーティ報告及び香港・マカオの歴史探求(1)

恭喜發財！

豊島会長の音頭により平成28年度初頭中京日本香港協会の幕開けである。恒例27年度の事業報告に続き28年度事業企画、予算など全理事出席のもと了承された。古田日本首席代表の退任および新任される林蘇珊日本首席代表の紹介並びに挨拶のあと、古田氏によるセミナー講演を全理事が聴取した。

午後6時よりの春節パーティでは、来賓として中華人民共和国駐名古屋総領事館葛廣彪総領事、経済産業省中部経済産業局波多野淳彦局長の祝辞、古田茂美氏、林蘇珊氏の挨拶に続き、髙橋名誉会長の乾杯のもと春節名刺交換会、親睦会、ライオンダンスが次々と賑やかに始まった。実に98名の参加を得た。終盤のラッキードローでは7割近くの参加者が当選され、最後にキャセイパシフィック航空の招待券の抽選で盛大に締めくくることができた。

ところで、香港の魅力について欧米人は「東洋のマンハッタン」と称する。私自身は2008年より「香港フォーラム」に参加しているが、訪問の度に感ずるのは、香港の土地に空や海どの入り口から入っても香港は不思議な街であり不変であるもその奥は五感には限りなく広がりのある世界だと思う。

そこで、今回自分なりの香港又香港の64㎞南西に位置するマカオの歴史にも触れてみたい。実は、毎回フォーラム参加の都度3泊4日の日程の消化と共に即帰国していたが、ここ2～3年来フリータイムの1日を何故自分の時間を香港・マカオの歴史探訪しなかったか悔やまれてきた。何故なら香港とはいえ九龍半島、香港島、ランタオ島など大小200以上の島々で構成されており、生活のリズムは我々より遥かに速い。脚力では大体一緒に出発しても追い抜かれる。

一方、マカオは香港より歴史は古く、ポルトガル領から中国へ返還されたのが1999年12月20日。面積は18.7㎢と狭い。マカオを歩くと気付くが、どこかヨーロッパの古都にいる錯覚を感じる。石畳みの歩道は大航海時代のヨーロッパとアジアを結ぶ。何故香港より近代化の激動の時代に遅れたか疑問視するも、どうやら最大の理由が貿易港としての差だとの見解が当協会広東語教室の先生から聞けた。というのは、「珠江の土砂」が大量に流入し貿易港として浅瀬のため香港経由のマカオ貿易を余儀なくされたとの由。体験上分かるのは水中翼船で香港から1時間近く走ると海の色が段々茶褐色に変色し、そこはマカオの入口に接岸する。個人的に興味があるのは、世界に誇る文化遺産を如何に観光に活かせるか。ポルトガル料理、土産品ほか観光安全地として世界へ発信されるか注視される。

乾杯の音頭は髙橋名誉会長

そして、香港・マカオの歴史探求(1)として最後に述べたいのは毎年「香港フォーラム」の会場である香港島コンベンションセンターの返還式典についてだ。1997年6月30日開催され中英両国の首脳陣、中国側は江沢民国家主席、李鵬首相、香港特別行政区董建華初代行政長官、英国側はチャールズ皇太子、ブレア首相、パッテン総督、実に大雨の中40か国4000名の大行事。後年我々日本香港協会代表団も当時の長官の公邸に招かれプールの際で歓待を受けた事が想い出される。一昨年フォーラム開催時出くわした「雨傘運動」の日も小雨。今年はどんな香港が待っているのか。安寧な香港を歩けることを願っている。

日本香港協会全国連合会

〒102-0083　東京都千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局　東京事務所内
電話（03）5210-5901　FAX（03）5210-5860

NPO法人日本香港協会（東京）
〒102-0083　千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内　電話（03）5210-5870

関西日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話（06）4705-7030

中京日本香港協会
〒460-0003　名古屋市中区錦2-11-27　TH錦ビル8階
株式会社喜斎内　電話（050）3620-2517

九州日本香港協会
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2丁目9-28　会議所ビル1階
地域企業連合会　九州連携機構 内　電話（092）451-8610

北海道日本香港協会
〒060-8661　札幌市中央区大通西3-7
北洋銀行国際部内　電話（011）261-4288

宮城日本香港協会
〒980-8520　仙台市青葉区一番町3-7-23　明治安田生命仙台一番町ビル3階
（株）JTB東北本社　営業部内　電話（022）212-5550

沖縄日本香港協会
〒900-0033　那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内　電話（098）868-3758

広島日本香港協会
〒730-0052　広島市中区千田町3-7-47　広島県情報プラザ3階
（公財）ひろしま産業振興機構　国際ビジネス支援センター内
電話（082）248-1400

新潟日本香港協会
〒951-8052　新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地
愛宕商事株式会社内　電話（025）365-0001

URL　http://www.jhks.gr.jp

KYUSHU

九州日本香港協会　事務局

「2016年春節セミナー&パーティー」

九州日本香港協会では2月3日(水)に、香港貿易発展局共催による「2016年春節セミナー&パーティー」をホテル日航福岡にて参加者141名で盛大に開催しました。

開会挨拶は九州日本香港協会会長石原進氏

今回のセミナーは香港貿易発展局の古田代表による特別講演、西日本新聞の傍示編集局総務及び日比谷松本楼の小坂副社長による基調講演、パネルディスカッションの3部構成でした。

石原会長による開会挨拶のあと、最初に香港貿易発展局の古田代表の特別講演『改革開放からシルクロード経済圏～九州と孫文の絆を生んだ黒潮が導く未来へ～』が行われました。古田氏は「中国の一帯一路（one belt one road，OBOR）は地方が周辺の異文化と繋がっていく。全体の投資金額は16兆ドルで65カ国が参加している。また、160年前から速度の速い黒潮ルートにより自然に中国人・南洋人は九州へ、九州人は香港・マカオへ渡航し貿易を行ってきた。孫文が九州に来て、多くの友達が出来たのは、九州の地政学的な特徴からすると自然なことである。多くの日本人、中国人がビジネスをしている現代で、両側にとって公共財として孫文は意味を持っている」と述べました。

次に、西日本新聞社の傍示氏は『孫文と九州人』と題して講演を行われ、孫文の革命思想に共鳴した九州・山口の人々として、安川敬一郎氏、田中隆氏、塚原嘉一郎氏、高野太吉氏、藤田義弘氏、黄興氏、頭山満氏、宮崎滔天氏、梅屋庄吉氏、新垣弓太郎氏を紹介しました。孫文の様々なエピソードを通して、何故孫文と九州が密接に結びついたのかを興味津々に伝えられました。

引き続き、小坂氏により『梅屋庄吉と孫文』と題して講演が行われ、「5年前にこの協会で『梅屋庄吉と孫文』の話をしてから色んな方々とのご縁ができた。心から感謝している。梅屋庄吉は貿易商の富裕な家庭で生まれ、14歳に上海にわたって孫文に出会い“強いアジア”という思いで繋がった。“君は兵を挙げたまえ。私は財を挙げて君を支援する”という言葉のように莫大な寄付は勿論、辛亥革命のフィルム製作、飛行訓練学校の創立、孫文と宋慶齢の結婚への寄与など、一生孫文に尽くされた。梅屋が投資したのは100年後も日本と中国の架け橋になるためだった。大同の精神である」と述べました。

講演の後、『九州人と孫文の関わり、そして今後の経済・文化交流について』というテーマでパネルディスカッションを行い、パネラーとして石原氏、傍示氏、小坂氏、古田氏に登壇いただき、九州経済調査協会の森本顧問がモデレーターを務めました。

パネルディスカッション

ディスカッションでは「孫文と九州人が共鳴した“アジア維新”の精神を日中両国で学術研究などで100年前の友情を学びなおすこと」(傍示氏)、「人間は利害打算だけではなく、心が突き動かされて動くものである。日本の若者はアジアの若者との交流を通して新しい刺激が生まれていく。長崎県の孫文・梅屋塾はまさにその一例である。九州全体も“孫文トレイル”を通してアジアとの交流をしていくことも可能」(小阪氏)、「九州から上海まで700km、東京は900km、離れている。中央より補助金もらえないときに、香港での資金調達が出来る。香港貿易発展局は日本からProject ownerをつれて日本の農業、環境技術を世界のVenture Capitalに紹介している。九州は梅屋庄吉が黒潮にのってアジア・南洋に行ったようにアジアに向かっていくこと。中華ビジネスは人情と人情を交換してその空間を楽しむこと。信頼できる九州人とビジネスをしていく」(古田氏)、「中国は軍費を増強して、世界128カ国と貿易をしている国である。日本も経済をしっかり立て直し、自衛力をもつことで中国との話し合いが出来る。国と国になると難しい点もあるため、ローカルとローカルの外交を一生懸命すること。CMMSで学んだ、自己人（Zujiren）と外人（Wairen）の概念がある。香港の一人一人との自己人の関係が重なって、ローカルのパワーになると思う」(石原氏）など活発な意見交換が行われました。

最後にモデレーターの森本氏が「皆様の議論や知恵がいかされて、今年孫文生誕150周年記念事業につながることが、このディスカッションの意義である」とまとめられました。

セミナー終了後、第2部の春節パーティーを開催。九州日本香港協会桑鶴副会長の開会挨拶の後、香港特別行政区政府ウィニー・カン代表、福岡県大曲昭恵副知事に来賓挨拶を頂きました。パーティーでは二胡奏者里地帰氏よる二胡演奏や、福岡少林武術団の公演、毎年恒例のラッキードロー（キャセイパシフィック航空、ホテル日航福岡、グランドハイアット福岡、九州旅客鉄道による協賛）が行われ、会場は大いに盛り上がりました。

春節パーティー

北海道日本香港協会　事務局

「香港ビジネスセミナー＆相談会inとかち」を開催

2015年12月15日、帯広グランドホテル2階グランドホールにおいて、香港貿易発展局の主催、北海道日本香港協会ほかの後援で「香港ビジネスセミナー＆相談会inとかち」が開催されました。

日本の農林水産物・食品の輸出先として、アジアのゲートウェイである香港向けが、トップとなっています。和食がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど海外での日本食人気が高まる中、香港は輸出戦略の重点地域として位置づけられています。

そこで、今回のセミナーでは、十勝産品の海外への販路拡大、十勝エリアの魅力発信をテーマに、それぞれ専門的な知見をもった講師からご講演をいただきました。今までこうしたセミナーは、北海道内では札幌での開催が中心となっていましたが、今回初めて札幌以外の都市として、帯広での開催が実現しました。会場には、20社37名の参加者が集まり、十勝地域の企業、関係機関の皆さまの関心の高さがうかがえました。

最初に、香港貿易発展局東京事務所次長兼マーケティングマネージャーの門田弘蔵氏から、香港市場の最新情報についてご説明いただきました。

続いて、観光分野について、地元の帯広市商工観光部観光課・課長補佐 尾澤琴也氏が、帯広市の「香港ブックフェア」出展の取組みを紹介されました。帯広市は、2015年7月の香港ブックフェアに初出展し、ばんえい競馬や人気マンガ「銀の匙」（十勝の農業が題材）等のコンテンツを売りに、観光誘致PRを行いました。香港の若者層を中心に、各素材の知名度の向上につながり、効果的なプロモーションが出来たとのご報告がありました。

物流分野では、㈱ ANA Cargoソリューション事業部長の谷村昌樹氏から、沖縄ハブを活用した国際物流について、十勝産の農産品輸出の目線で、解説いただきました。

続いてJA中札内・組合長 山本勝博氏から、中札内産「枝豆」輸出の取組みについて講演いただきました。現在、米国、カナダ等8カ国へ輸出しており、中でも香港向けの歴史は長いとのこと。TPPが現実のものとなろうとしている今、北海道ブランドを生かした「攻める農業」の必要性を提言されました。

最後に、「アジアにおける日本酒マーケット事情」と題して、ジャパン・インターナショナル・トレーディング㈱代表取締役社長 奥島正氏が講演されました。香港は、日本酒輸出先として米国に次ぐ大きなマーケットであり、輸出額の平均単価が高く、高価な商品が受け入れられる市場であること、また中国や香港での商標・知財保護の準備も日本酒輸出に欠かせないこと等を、解説いただきました。

なお、セミナー終了後、香港貿易発展局の貿易アドバイザーを務められる奥島氏が、個別相談会を実施。申込みをされた地元企業3社に対し、個別に相談対応・情報提供を行いました。

今回のセミナーは、十勝エリアの中心都市である帯広を会場とし、地域に関連したトピックを積極的に盛り込んだ内容となり、参加した協会会員並びに地域企業にとって、自社ビジネスに取り入れられる参考要素を多く含んだものとなりました。

これを機に、帯広地域の関係機関と連携し、香港貿易発展局やその他支援機関と協力していくことで、具体的なビジネス展開を応援してまいりたいと思います。

香港ブックフェア出展の取組みを紹介される帯広市商工観光部観光課・課長補佐 尾澤琴也氏

香港向け農産物輸出の取組みについて講演されるJA中札内・組合長 山本勝博氏

MIYAGI

宮城日本香港協会事務局　武田　功

2016春節セミナー＆パーティーを開催

セミナーで挨拶する古田代表

2月19日(金)「2016春節セミナー＆パーティー」をTKPガーデンシティ仙台（アエル30階）に於いて開催しました。寒い中、100名を超す参加者を得て、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏、そしてドイツから赴任したばかりの後任のスーザン・ラム氏を迎え、盛大に開催することができました。

古田代表の挨拶で幕を開け、「香港からの訪日旅行市場へのアプローチ」と題して日本政府観光局香港事務所次長の清水泰正氏から約40分にわたって講演がありました。昨年の訪日客は152万4,000人と前年比で64.6%も伸びていること、人口に占める訪日客数の比率は4.8人に1人の割合で、リピーターは10回以上が21.1%と世界第1位、訪台客を上回る勢いとなっていることなど。これからは、香港人目線で更なる訪日客の増加を目指す必要性などをお話しいただきました。

続いての講演では、「にっぽんのおむすび文化、香港へ、そして世界へ！」と題して、百農社国際有限公司董事の山田憲司氏から、約1時間にわたってお話がありました。今、香港では行列ができるほど「おむすび」に人気がある。マカオ行きフェリー乗り場にある店舗では、朝乗る前に明るく買っていく人がいて、帰りには意気消沈してうなだれながら買っていく人がいるが、どっちにしても「おむすび」を買っていくと。

第2部は春節パーティーです。大坪代表理事による挨拶、3月で退任される古田代表、後任のスーザン・ラム代表の挨拶。そして若生副知事の祝辞の後、みやぎおかみ会会長の四竈明子氏の音頭による乾杯があって祝宴、会場には、香港の数々の飾り付けが施される中、香港の気分を満喫することができました。花を添えたのが里地帰氏の二胡の演奏と唄、異国情緒漂う演奏に、思わずうっとりなってしまう程でした。

セミナーで挨拶する小野寺会長

パーティーで挨拶するスーザン・ラム代表

セミナー会場風景

四竈みやぎおかみ会会長の発声により、さあ乾杯です

女性部会が香港文化教室を開催

2月9日(火)仙台国際ホテル5階「翠林」に於いて、女性部会の親睦を深めるため、羽田料理長を講師に、「料理教室」を開催しました。大坪代表理事も出席し総勢21名の参加となりました。今回は外務省から二階堂幸弘氏を招いての教室です。海外（クウェート・スイスなど）での苦労話などを聞きながら、おいしい料理に舌鼓をうつ、一挙両得の企画でした。

料理は平日限定ランチメニュー「楊貴妃」をモデルにしたメニューです。春の幸・前菜盛り合わせ、牛メガネ肉の炒め、白菜漬け焼売と蟹爪の蒸し物、アサリと春筍とあおさの煮物、そして白身魚の甘酢サラダ添えなど。まさにグルメな女性を虜にしてやまない魅惑のプチ料理「中国女性の美しさ」漂う味わいを体験することができました。

料理教室で最後に参加者みんなで記念の一枚に

沖縄日本香港協会　事務局

沖縄日本香港協会　役員昼食会　開催

役員昼食会

2月26日(金)ザ・ナハテラス2階ガーデンルームにて香港貿易発展局と沖縄日本香港協会役員との昼食懇談会が開催されました。香港貿易発展局からは古田茂美日本首席代表、伊東正裕大阪事務所長、田中洋三大阪事務所次長、そして新たに香港貿易発展局の首席代表に就任予定のスーザン・ラム氏が参加されました。

冒頭、沖縄日本香港協会の仲田秀光事務局長は「香港から沖縄への観光客数は倍増しており、台湾に次いで多くなっている。2020年に第2滑走路の運用開始が予定されている那覇空港では、LCCを含め香港との直行便の増便が期待される他、ANAの国際貨物ハブ事業など、沖縄と香港の結びつきを更に進める事業が展開されている。今後とも香港貿易発展局の協力を頂きながら香港とのビジネス交流に寄与していきたい」と挨拶しました。

古田茂美日本首席代表は、「香港からの観光客は倍増しており、沖縄の観光・リゾートとしての香港での知名度は上がってきている。香港とのビジネスも今までは、農産物を含め『モノ』の輸出が主力だが、今後は、日本独自のデザインやコンテンツの伸びが期待される。沖縄も独自の文化を育んできた歴史がありこの分野でも可能性が充分ある」と挨拶しました。

春節　香港経済セミナー2016　開催

春節香港経済セミナー

平成28年2月26日(金)ザ・ナハテラス3階アダンの間において香港貿易発展局・沖縄日本香港協会主催、日本貿易振興機構沖縄貿易情報センター後援による「春節　香港経済セミナー2016　一帯一路　シルクロード経済圏の全貌」が開催されました。習近平国家主席が提唱する中国を起点に中央アジアからヨーロッパを繋ぐ一大経済圏を生み出そうとするシルクロード経済圏構想「一帯一路」に対する関心が高く、多くの参加者がありました。

セミナー参加者の様子

講師である香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏は「中国の経済成長は鈍化しているが、まだ充分の経済発展していない中国の辺境とその周辺諸国との貿易・経済交流を促進することにより新たな経済発展を目指す構想である」と説明されました。更に「日本での地方創生にみられるように地方・辺境が見直されている。沖縄もある意味日本の辺境であるが、今後は地方と地方、辺境と辺境がネットワークを通じてつながることにより更なるビジネス展開のチャンスがあり、沖縄の中小企業の可能性は充分ある」と語りました。

セミナー後、春節パーティーが開かれ、会員・関係者が名刺交換等をしながら懇親を深めました。また今年度で日本首席代表を退任される古田茂美氏に、沖縄日本香港協会の設立及びその後の活動に対する支援と長年の御労苦に感謝を込めて沖縄日本香港協会より花束の贈呈を行いました。

春節パーティーにて役員の乾杯

HIROSHIMA

広島日本香港協会事務局　大久保　忠之

「第16回香港フォーラム」「全国協会交流会」へ参加

平成27年11月30日・12月1日、「第16回香港フォーラム」「全国協会連合会」へ参加いたしました。各種プログラムへの出席を通じて、香港でのビジネスの優位性を再認識いたしました。

また、当協会では、これらに併せて独自に協会会員から参加者を募り、大型客船が同時に2隻も接岸でき、また同時に入国審査・税関手続もできる「カイタッククルーズ・ターミナル」の内部を視察させていただきました。その壮大なスケールに驚かされました。そして夕刻には現地でご活躍されている香港広島県人会（会長：石原直氏）の皆様方と交流会を開催しました。今回の交流会は、一昨年度に続いて3回目の開催となり、JETRO香港事務所長の伊藤亮一氏、フレッド・カン法律事務所の武藤錬太郎氏にもご参加賜りまして、総勢12名にて現在の香港事情や現地駐在員としてのご経験、地元広島の話題などで、大変盛り上がりを見せた会となりました。今後も、協会会員の香港フォーラムへのより多くの参加を呼び掛けるとともに、香港広島県人会との交流を図っていきたいと考えております。

香港広島縁故者交流会

「春節・意見交換会」の開催

広島日本香港協会では、2月12日(金)に香港貿易発展局のご支援の下、「春節・意見交換会」を、昨年と同じく市内のリーガロイヤルホテル広島・中華料理レストラン「龍鳳」にて開催いたしました。協会からは、深山英樹会長、光本和臣副会長ら11名の役員の方々にご出席いただき、また、香港貿易発展局からは日本首席代表の古田茂美様、大阪事務所長の伊東正裕様にご参加いただきました。

冒頭での深山会長からの挨拶では、「会員6名が昨年の11月30日から香港を訪問しフォーラムに参加した中で、香港の若い経営者3人の講演を聞く機会を得て、香港の持つポテンシャルと熱気がすごく感じられたと報告を受けております」「香港、中国、東南アジアでのビジネス展開を一層推進するためにも、是非、広島日本香港協会事業ならびに香港フォーラム等にご参加いただき、香港の生の情報を直接肌で感じてほしい」と述べられました。

続いて講演では、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美様より「改革開放からシルクロード経済圏へ～中国の国情を知る～」と題し講演をいただきました。要約すると以下のような内容でした。

- ○「アジア～イスラム～インド～中東～イスタンブール～アフリカ～ヨーロッパ」と64か国（人口では世界の63%、GDPでは世界の30%）が繋がる「シルクロード経済圏」は、これまでの華人経済圏を超えた。
- ○香港はこれまでの舵取りを変更し、シルクロード経済圏のゲートウェイとして全面的に参加する。
- ○香港の主要貿易相手国は中国が半分である。中国への投資は難しいので香港を通せばどんどん中国に物は流れる。そういった意味で、香港は使い勝手がよい。
- ○シルクロード経済圏に繋がれば、世界のマーケットに繋がる。
- ○シルクロード経済圏は国家の繋がりではなく、都市のつながりである。東西を結ぶ陸路としてシベリア鉄道とユーラシア鉄道があるが、2020年にはこれまで裏日本と言われていた日本海側が表日本となるかもしれない。
- ○新規事業機会として、インフラ建設関連産業、交通輸送関連産業、エネルギー産業（石油・天然ガスの輸入パイプライン、発電所建設、電力関連設備製造など）、貿易と観光産業が有望である。

会の最後には、出席者全員で、円卓を囲み、美味しい中華料理を堪能し、中国正月を祝うとともに、新年度の更なる当協会の発展を祈念し、無事に会を終了しました。

なお、この場をお借りして、ご多忙な中、会にご参加いただき、有益な情報をご提供いただいた、香港貿易発展局日本首席代表の古田様、大阪事務所の伊東所長には厚く御礼申し上げます。また、古田様は、今年の3月31日付で、香港貿易発展局日本首席代表を退任される予定とお聞きしております。広島日本香港協会の設立時から、長きにわたり大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

今年度も、事務局として講演会やセミナー等を積極的に企画・実施していく事により、協会会員の中から1社でも多く、香港をパートナーとした海外での事業展開がなされることを期待しております。

春節・意見交換会

新潟日本香港協会　事務局

香港ビジネスセミナーを開催

2015年11月27日(金)に当協会主催の香港ビジネスセミナーを開催し、当日は20名の方が参加しました。講師には、香港で大変人気のあるおむすび屋さん「華御結(はなむすび)」を展開されている百農社国際有限公司董事の山田憲司様をお迎えし、「にっぽんのおむすび文化！香港へ、そして世界へ！」と題しご講演いただきました。山田様は1990年に香港のヤオハングループの総本部に勤務をされた後、日本のお米の美味しさを世界に伝えるために「おむすび」に注目し、香港の優れたビジネス環境を活用し2010年に百農社を設立、現在では13店舗（2015年11月現在）にまで店舗数を増やし、安心安全で高品質の日本のおむすびの魅力を発信されています。今回の講演では、山田様の海外進出の実情をはじめ、サッカー元日本代表監督の岡田武史さんから直接アドバイスをして頂いた貴重なお話もご紹介いただきました。参加者からは「いつもと違ったスタイルのセミナーでとても楽しく聞かせてもらいました」などの声をいただき、盛況に終わりました。

山田憲司氏によるセミナー

2016年春節セミナー＆パーティーを開催

去る2月23日(火)に、香港貿易発展局との共催で「2016年春節セミナー＆パーティー」をANAクラウンプラザホテル新潟にて開催いたしました。

セミナーでは、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏より、「『一帯一路』～シルクロード経済圏の全貌と香港の役割～」と題しご講演いただきました。古田氏からは、香港の最新の貿易ハイライトをはじめ、香港の背後にある「シルクロード経済圏」を見据え日系企業が海外へ進出するためのヒントなどをお話しいただきました。また、昨年香港で開催された見本市（7月の香港ブックフェア、8月のフード・エキスポ）で実際に新潟の企業や専門学校等が出展した際の現地の反応や様子について触れ、新潟の食とマンガは香港の人々に大変好評だったとお話しされました。

セミナー終了後は、隣の会場に場所を変えてパーティーを開催いたしました。パーティーでは、セミナー登壇者をはじめ約40名の方が集まりました。

春節セミナーの様子

吉田会長による主催者挨拶で幕を開けたパーティーでは、セミナーで講師を務めて頂いた古田茂美氏より日本首席代表退任の発表がありました。当協会が設立して3年が経ちますが、設立当初から古田氏には新潟の魅力を世界へ発信するためには香港をどのように活用し何をどのようにアピールする必要があるのかなど様々なヒントを頂いてまいりました。古田氏の更なるご活躍を心よりお祈りいたします。

古田氏による退任発表の後は、4月1日より新たに日本首席代表となる林蘇珊（スーザン・ラム）氏より新代表就任への意気込みをお話しいただきました。その後、中華人民共和国駐新潟総領事館副総領事の季文斌（キ・ブンヒン）様による来賓挨拶があり、当協会顧問の篠田新潟市長の乾杯挨拶にて歓談を開始しました。途中で開催されたラッキードロー抽選会も大いに盛り上がり、最後は当協会の長谷川宏志副会長による閉会の挨拶でパーティーを締めくくりました。

なお、ご多忙な中、ご参加いただいた皆様とセミナーで有益な情報をご提供いただきました古田茂美氏には、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。次年度におきましても、香港貿易発展局や香港経済貿易代表部等の諸機関と連携しながら、会員の皆様により良いビジネスサポートができるよう努めてまいりたいと思います。

ラッキードロー抽選会の様子

充実した旅。それは、心安らぐひとときがつくるもの。

キャセイパシフィック航空 – Life Well Travelled

充実した旅は、思い出をより深く、人生をより有意義で実り多いものにします。
だからこそ私たちは、よりよい旅行体験にこだわるのです。

ハッシュタグ **#lifewelltravelled** を使ってお気に入りの写真をシェアしてみませんか。
cathaypacific.com/lifewelltravelled

oneworld Asia Miles DRAGONAIR

CATHAY PACIFIC
Life Well Travelled